令和4年度 厚生労働省委託事業
在宅医療関連講師人材養成事業 研修会

総論⑪

成人を診る在宅医との連携

いらはら診療所
和田 忠志

はじめに

本項では、「成人を診る在宅医への期待」「病院の小児科医への期待」を述べます。

高齢者等の在宅医療を行なう医師には、小児だからと断らず、ぜひ、小児在宅医療に参入して頂きたいと考えます。

病院の小児科医には、地域の在宅医とのネットワークを、ともに構築してもらいたいと考えます。

その方法について、お話しします。

成人を診る在宅医との連携

１. 成人を診る在宅医への期待

２. 病院の小児科医への期待

成人を診る在宅医との連携
１．成人を診る在宅医への期待

（１）小児在宅医療の課題を知る

（２）病院と連携し、小児の在宅医療推進に寄与する

１．成人を診る在宅医への期待

（１）小児在宅医療の課題を知る

- 障害を持った子どもの在宅療養の存在を知る
- 重度障害児が親と一緒に生活できることの支援に関心を持つ
- 病院小児科医と連携し、小児在宅医療を行う

１．成人を診る在宅医への期待
（１）小児在宅医療の課題を知る

●障害を持った子どもの在宅療養の存在

・障害を持つ子どもが、親とともに自宅療養する
　希望を実現すること

・重い障害児を円滑に自宅に退院させ、
　小児医療システムを維持することの意義

１．成人を診る在宅医への期待
（１）小児在宅医療の課題を知る

●重度障害児が親と一緒に生活できることの支援に関心を持つ

・DNAR (do-not-attempt-resuscitation) の話がされていないことが多い
(小児では家族がDNARを決断できないことがある)
・親の思い（罪悪感）の存在
・成長や発達に対する配慮
・小児から成人への移行が難しい

1．成人を診る在宅医への期待
（1）小児在宅医療の課題を知る

●小児在宅医療を行う医師

福岡県福岡市、ニノ坂保喜医師の例

- 消化器外科出身の在宅医、1人医師の開業医
- がん緩和ケアとともに、小児在宅医療に取り組む

●小児在宅医療を行うこと

- まずは参入体験から
- 病院への転送の「閾値」は、高齢者等より低いと考えてよい

１．成人を診る在宅医への期待
（２）病院と連携し、小児の在宅医療推進に寄与する

- 病院医師と連携した退院支援
- 小児在宅医療の実践
- 小児在宅医療を行う訪問看護ステーションの養成
- 医師会などの公益活動を通じて、小児在宅医療を推進

成人を診る在宅医との連携
２．病院の小児科医への期待

成人を診る在宅医との連携の要点

（１）地域移行の課題

（２）「成人を診る在宅医による小児在宅医療」での
　　病院の支援体制

　地域の小児医療拠点病院と、郡市区医師会が連携し、小児在宅医療体制が構築されることが期待される。

２．病院の小児科医への期待
（１）地域移行の課題
１．退院支援

- 小児在宅医療対象者は病院で発生する
- 全国各地に在宅医療を行う医師・看護師がいることを知る
- 成人患者の訪問をしている積極的な在宅医・訪問看護師は、小児在宅医療に関心を持つことが多い
- 郡市区医師会が在宅医に関する情報を持っていることも多い

前田浩利他:小児の訪問診療も始めるための29のポイント 南山堂2016

２．病院の小児科医への期待
（１）地域移行の課題
１．退院支援

- 病院スタッフが自宅に帰すことを発想
- 在宅医療に熟練した専門職に相談
- 障害福祉制度、訪問看護・訪問薬剤管理指導などの活用

前田浩利他:小児の訪問診療も始めるための29のポイント 南山堂2016

２．病院の小児科医への期待
（１）地域移行の課題
２．小児在宅医療を提供・支援する地域資源へのつなぎ

- 訪問看護ステーションにアプローチ
- 訪問看護師に在宅医を推薦してもらう方法
- 薬剤師や、障害者相談支援専門員の導入
- 患者・家族が、自宅で、「次第に安心感を獲得」することで在宅療養は安定化

吉野真弓、吉野浩之、太田秀樹:
H17勇美財団研究助成「利用者が作る在宅ケアシステムの実証研究」2006

２．病院の小児科医への期待
（１）地域移行の課題
３．児の重症度による課題

- 成人を診る在宅医
  患者に自発呼吸があり、経口摂取可能なら
  診療可能なことが多い。

- 熟練した在宅医
  人工呼吸器装着、経管栄養実施の場合でも、
  診療可能なことが多い。

２．病院の小児科医への期待
（１）地域移行の課題
４．在宅医療開始時期

- 自宅退院時が一つの機会。そのときに、訪問看護を開始することが理想である。
- 「小児を診る意欲をもつ在宅医」との連携は、いつ開始してもよい。
- 郡市区医師会が在宅医に関する情報を持っていることも多い。
- 在宅医あるいは訪問看護師の意見を聞きながら、在宅移行の時期と方法を探りたい。
- 地域移行はスピード感をもって行うとよい。在宅医との頻回の情報交換が推奨される。

成人を診る在宅医との連携
２．病院の小児科医への期待

（２）「成人を診る在宅医による小児在宅医療」での病院の支援体制

２．病院の小児科医への期待
（２）「成人を診る在宅医による小児在宅医療」への
病院連携支援体制

- 病院による在宅医支援は重要である。

- 病院医師と在宅医の併診は有意義である。

- 病院の支援活動として、特に重要なのは、
  １．急性増悪時の24時間受け入れ態勢
  ２．レスパイトケアへの応需

２．病院の小児科医への期待
（２）「成人を診る在宅医による小児在宅医療」への
病院連携支援体制

- 在宅医に丸投げをしない
- 在宅医の役割を理解し、処方や医療処置等の活動が円滑にできるように配慮する

結語

- 成人を診る在宅医との連携は、小児在宅医療推進の要諦である
- 成人を診る在宅医は小児在宅医療に関心を持つことが望ましい
- 病院医師は、成人を診る在宅医との連携を模索することが望ましい
- 医師会と地方公共団体は連携し、「病院小児科医」と「成人を診る在宅医」との連携体制を構築することが望ましい